

# 学校だより 6月号

令和8年5月29日 第3号



大田区立多摩川小学校 校長 並木 昭  
<https://www.ota-school.ed.jp/tamagawa-es/>

学校だよりはデータ配信 (tetoru) になります。  
本校HPIにも掲載しています。ご確認ください。

## 砥石と青い石鹸 ——今をみつめて、知恵をつなぐ——

校長 並木 昭

風薫る5月が過ぎ、木々の緑も日に日に深みを増してまいりました。新学期のスタートから2か月が経過し、こどもたちは新しい学年や学級の環境に徐々に慣れ親しみ、日々の学校生活に落ち着いて取り組む姿が見られます。

もう何年も前のことになりますが、都内のとある道具屋で、砥石の使い方を教わる機会がありました。店主は、包丁を砥石に当てる際、「十円玉を一枚砥石に置き、その上に包丁を重ねれば、ちょうど良い角度を保てるよ。」と教えてくれました。なるほどと思い、その店で表と裏で粗さの違う砥石を買い求め、自宅で試してみました。

包丁を研ぐとき、「なぜ、はじめから仕上げ用の目の細かい砥石で研がないのか。」と考えることがあります。あるいは、泥だらけの衣類を洗うとき、「なぜ、はじめから部分洗い用の石鹸をこすりつけないのか。」と思うことがあるかもしれません。これらの手順を選ぶ理由は何でしょうか。

それは、いきなり「最終手段」を使っても、その効果が十分に発揮されないことが多いからです。分厚い泥がついたまま強力な石鹸を使っても汚れは十分に落ちません。水やぬるま湯で予洗いをして、大まかな泥を落とすことが必要です。包丁も同じで、錆や刃こぼれがある状態に、はじめから目の細かい砥石を当てても、根本的な不具合は取り除けず、本来の切れ味を取り戻すことが難しくなります。

大切なことは、対象の「今の状態をみる（診る、見る）」ことです。

これは、学校教育におけるこどもたちへの指導や支援にも深く通じます。目の前のこどもが今、どのような状態にあるのか。何につまずき、何を必要としているのか。課題に適した支援ができているか、いわば、私たち教職員が選ぶ「砥石の番手」は適切かどうか問われます。大人の正解を急いで押し付けるのではなく、まずは、こどもの今の状態をしっかりと「診る、見る」ことから開始し、適切な支援の段階を踏んでいくことで、人は、いつでも学びと育ちを更新できるのだと信じています。

そして、もう一つ。十円玉を使った包丁の研ぎ方は、一度試せばすぐに要領を掴めるほどのささやかな技術です。そうした小さな知恵を誰かから教わり、受け継ぎ、また次の誰かへと伝えていく。その「リレー」こそが、人の営みを豊かにし続けているのだと考えます。

学校教育において、この「知恵のリレー」はどんな場面で見られるのでしょうか。上級生が下級生に掃除の仕方を教える姿。先生から教わった考え方を、友達同士で教え合う姿。家庭や地域の方々から、大切な文化を受け継ぐ場面。学校は、そうした無数のあたたかいリレーが行われる場所でありたいと願っています。

これからも、こどもたちの「今の状態」を丁寧に把握しながら、教職員一同、適切な支援という「砥石」を選び、日々の教育活動に尽力してまいります。保護者、地域の皆様におかれましても、引き続きの御支援と、こどもたちへの「知恵のリレー」に御協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 6月の生活目標「廊下は正しく静かに歩こう」

生活指導部

廊下を歩いていると、曲がり角や階段で、また、教室から飛び出してきた人とぶつかりそうになることがあります。これから梅雨に入ると、床が滑りやすくなり大きなけがにつながることもあります。廊下や階段を静かに歩行することは、安全に気をつけ、落ち着いて生活する上で大切なことです。廊下や階段歩行のルールを身に付けさせると同時に、楽しく明るい学校生活を送ることができるよう指導していきます。

### 「とうぶ移動教室に向けて」

### 6年学年主任

小学校生活最後の移動教室に向けて学年目標である「考え、行動する」を意識して生活しています。移動教室では、「考え、行動する」場面が多々あります。自分の係の仕事を主体的に行うこと、班の仲間と協力すること、時間、マナーを守ることなど移動教室で学んだことを、日々の学校生活にも生かせるよう指導していきたいと思います。また二泊三日、親元を離れ過ごすので、楽しみなお子さんもいれば不安なお子さんもいるかと思っています。学年便りの「ピース」を合言葉に、お互いで支え合い、実りのある移動教室になるよう支援していきたいと思っています。

保護者の皆様にも準備等でご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。